

透析と旅行 ～グローバルに視点を向けて～② 日本の患者さんにも 海外に行ってほしい

■アウトバウンドへの支援に取り組む

—ここまでは、インバウンド（海外患者さんの受け入れ）のお話をしてきましたが、そもそも私たちには、日本の患者さんに活動範囲を広げていただきたいという思いがあります。つまり、アウトバウンド（日本の患者さんを海外へ）への取り組みも行っています。

昨年はアジア3カ国への視察を行っています。そのうちの1カ国がベトナムだったのですが、実際に行かれてみて、現地の透析事情はいかがでしたか。

看護師：まず、施設によって透析事情は大きく異なります。国立病院は過酷な状況です。1日4～5クールは当たり前で24時間稼働。93ベッドで650人の患者さんの透析治療をしており、救急が月に250件もある状況です。

しかも保険の関係で、ダイライザーだけでなく回路のリユースも当たり前です。さらに透析が必要な人のうち10%しか透析を受けられない状況でもあります。その理由の1つは、圧倒的な透析施設の不足です。透析施設は大都市にしかなく、透析をしたい患者さんは「透析村」と呼ばれる透析施設に近いエリアに引っ越して来しかありません。

その一方で、私立病院はとてものゴージャスで、もちろんリユースはありません。個室の完備もあり、日本の透析よりも素晴らしい設備もあります。

—現地の透析費用はどのくらいですか。

看護師：国立病院ですと保険請求でほしい1,500円くらい。私立病院ですと1万～1万8,000円ほどだと思います。

—ここで、北米に行かれた患者さんのエピソードを聞かせていただけますか。

コンシェ：以前、お仕事で北米に行かれる患者さんがいらしたのですが、お知らせいただいたのが約1カ月前でした。北米の施設から感染症のデータが必要といわれ、その提出期限が厳しく（4週間前まで）、データを準備しても間に合わないのではないかと少しヒヤヒヤしました。

—それは大変でしたね。費用の面はいかがですか。

看護師：北米はアジア圏よりも高いと思います。例えばフィリピンの日系病院ですと3万円くらいですが、北米は500～600ドルで大体8万円と思います。

—それは高いですね。

看護師・コンシェ：高いです。

■私たちが旅行透析をサポートする理由 ～日本の透析治療を提供しているという責任感～

—実は以前、患者さんアンケート調査をした時に「海外旅行に

行くならハワイに行きたい」というご意見が非常に多かったのです。患者さんのその思いを私たちは何とか叶えて差しあげたい、何か出来ることはないかと考えています。しかし、これまでお伝えしてきました通り、旅行透析にはインバウンド・アウトバウンド共に、それぞれに大変なことがあります。それでも私たちOasis Medicalは旅行透析を支援し続けているわけですが、その点についてお話しください。

看護師：仕事もするし出張もするし、家族との旅行も楽しんでいるアクティブな患者さんに、国内外問わず、うち（Oasis Medical）で透析をされた患者さんに「安全・安心な透析ができてよかった」とか「また来年も来たいです」って言ってもらえたら嬉しいし、その瞬間、その言葉を聞けるだけでも良かったって思います。だからまた頑張れるのです。

それと同時に、海外の患者さんを受け入れる場合は、日本の透析治療を提供している責任も感じています。

—それは日本の透析の質を担っているという重責でもありますね。

看護師：はい。

コンシェ：私も同じ意見です。先程（前号）の台湾のお婆ちゃまの言葉もそうですが、海外旅行から帰国された患者さんも同じで、「海外旅行、楽しかったよ」とか「また行きたい」と、笑顔で、そしてキラキラした表情で言われたら、私たちがまた頑張ろうって思います。

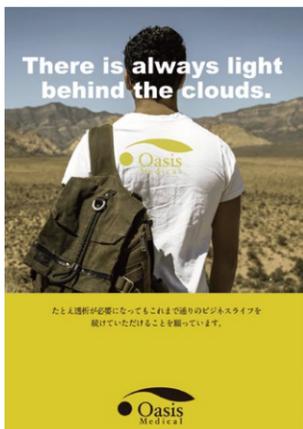
■オリンピックイヤーまであと3年 ～私たちが頑張っていること～

—東京オリンピック・パラリンピックまであと3年足らずです。もちろん多くの透析患者さんが海外から日本に来ると思います。そんな中、私たちは「安心・安全な透析」を提供するために、更に頑張りを続けなければならないと思うのですが、それぞれオリンピックイヤーに向けて、何を頑張りますか。

看護師：個人的になりますが、グローバル対応ができるナースになりたいです。海外の文化や相手の考えを理解しながら、言語も相手の言葉を使えるようになれば素晴らしいなと思います。ただ、とてもハードルは高いですが（笑）。頑張りたいなと思っています。

コンシェ：同じく言葉の壁なのですが、通訳を通すと微妙なニュアンスが伝わらないことがあるので、会計の時や受付レベルでの英語対応は、できるようになりたいと思います。

—ありがとうございました。



オアシスメディカルのポスター

Oasis Heart

オアシスから心をこめて…



第20号 2017.09

メディカル・ツーリズムのメッカ タイ

Oasis セミナー

バンコクホスピタルから倉田舞先生をお招きして①

日本でも類を見ないほど優れた医療サービス

Oasis Medicalでは、さる9月18日、世界中から患者を集めるタイ最大の病院グループ、バンコクホスピタルの国際マーケティング部東アジア担当マネージャーとして医療サービス・グローバルマーケティングの最前線でご活躍されている倉田舞先生を講師にお招きし講演していただきました。



バンコクホスピタル 倉田舞先生

国民皆保険、フリーアクセスの日本に比べると海外の医療に目を向けることはあまりありませんね。東南アジア諸国は、日本に比べると、まだまだ経済も医療レベルも劣っていると思込んでいませんか。しかし、実際に現地に行ってみるとそれが単なる思い込みで、大きな間違いであることに気づかされます。首都バンコクは、東京と変わらず近代化され、バンコクホスピタルの医療サービスは日本でも類を見ないほど素晴らしい。透析患者さんも安心して、出張や旅行でタイへ、また他の国々へも出かけて欲しいと思います。倉田先生には、世界から集客するバンコクホスピタルのサービスや日本とは異なるタイの医療制度などについてお話を伺いました。以下、その要約です。

医療はタイの重要な成長産業

タイは国を挙げて、メディカル・ツーリズムを推進してきました。医療はタイの重要な産業の一つなのです。バンコクホスピタルを例にとりますと、外国籍の患者が総患者数の1/4を占め、さらにその収入は総収入の1/2に達しています。外国籍の患者は単価も高く、きわめて重要な存在です。

私たちは株式会社が経営する私立病院で、世界の病院グループの中では資本規模で5番目に大きいとされています。株式会社ですから利益の追求は必須ですが、利益を株主に還元するだけ



バンコクホスピタルの外観

でなく、タイ全体の医療レベルを高め、国民の健康に貢献することも大切な目的となっています。病院が高度な医療機器・設備を用意し優秀な医師を確保し、そして多くの医療スタッフを教育してきました。ここで教育を受けた医療スタッフが広く国内で活躍しているのです。

大切なグローバルな評価

グローバルスタンダードに基づく第三者評価は非常に重要です。バンコクホスピタルは早くから、国際的な認証であるJCIやさらにグレードの高い疾病別のクリニカルパスについても認証を受けています。世界を結ぶ航空機による医療搬送を行うための認証（camts、URAMI）のほか Temos、F-MARC（FIFAによるプロサッカー選手の医療を担う認証）などを取得しています。認証の取得、更新は大変ですが、そのための専門部署を設置し研修を行っています。

さらに重要なことは、優れた医師の確保です。各専門領域において世界でもトップクラスの医師をヘッドハンティングしています。医師の医療チームが（そして患者も）丸々移籍してくることもあります。

もちろん、国内の優秀な医師が積極的に志願してきますし、バンコクホスピタルグループの中枢となるバンコクキャンパスには、バンコクホスピタルのほか、ハートセンター、がんセンター、リハビリテーションセンター、デンタルセンターがあり、米国やヨーロッパのライセンスを持った医師もたくさん在籍しています（次号に続く）。（D.S）

今月の心を元気にするペットーク

未来の自分を作るのは、現在の自分だよ

提供：一般財団法人日本ペットーク普及協会
理事 占部正尚 <http://www.peptalk.jp>
参考書籍：ビジネス・ペットーク（日刊工業新聞社）

【解説】 小さい頃、「どうして勉強しなきゃいけないの？なんの役に立つの？」と思ったことはありませんか？でも、大人になってみると、最低限のことは知っておいて良かったと思える場面は多いでしょう。現在、「なぜ、こんな業務を任された？」「この作業は必要なのか？」と不満があるかも知れません。なぜなのか、本当に役に立つのか…その答えを知っているのは、未来の自分だけです。まず取り組んでみて新たな発見をするのも自分、嫌だと思ふ理由を言って断るのも自分、その場から逃げ出すのも自分…いずれにせよ、現在の自分の発想や行動、立居振舞の延長線上に未来があるのです。そして、どのような未来にしていけるのかを決めるのは、自分なのです。

- ネガティブな現在) たぶん、満足を得られないまま迎える未来
- ポジティブな現在) きっと、満足を得られる可能性に満ちた未来

編集部から

皆様には、お届けが遅れ誠に申し訳ありません。9/21~24 東京ビッグサイトで「ツーリズム EXPO ジャパン」が開催されました。日本各地から、世界各国から観光資源をアピールする出展、ツアーやガイドアプリなどのサービス展示、イベントがありました。バンコクホスピタルも出展されていました。非常に盛況で、年配の方々のご来場も多く、観光産業が盛んであることを実感しました。～旅～本当にいいですね。

Oasis Heart 編集部 医療法人社団 Oasis Medical 内
〒114-0014 東京都北区田端 1-21-8NSK ビル 4F TEL03-3823-9060 FAX03-3823-9061
東京での夜間透析、臨時（旅行等）透析はアクセスのよい
東京新橋透析クリニック（03-6274-6320 www.toseki.tokyo）、田端駅前クリニック（03-3823-9060 www.tb-toseki.jp）

透析医療の秘密

透析液って何？

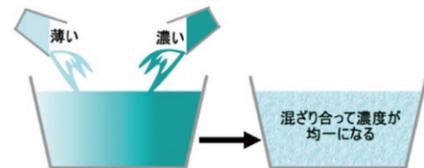
今回は透析液って何？ ということテーマに、ここ田端駅前クリニックの水を使用して作られる透析液について解説します。

透析液の秘密～拡散の力～

透析液とはダイアライザーにつながっているチューブ内を流れる水のことです。透析をするときカリウムやリン、毒素が体から除去され、ナトリウムやクロールは維持されます。これは透析液と血液とで行われる「拡散」という仕組みを利用しています。

では、拡散とはどんな現象なのか？ 例えば、濃い塩水と薄い塩水を同じ容器に入れると混ざり合って図のように濃度が均一になります。これが拡散です。

透析液にはナトリウム・カリウム・カルシウム・マグネシウムの(+)イオンとクロール・重炭酸イオン・酢酸の(-)イオン、ブドウ糖が含まれています。まず、透析液のイオン組成で重要なナトリウム・カリウム・カルシウム・重炭酸について解説します。次に登場する単位mEq/Lはミリ当量/リットルと呼び、1リットル中に含まれるイオンの電荷量です。



ニュージーランドの秘密

在宅医療の先進国

前号で、世界でもっとも在宅透析 (PD、HD) が普及している国ニュージーランドについて言及しましたが、ニュージーランドは透析に限らず、在宅医療先進国です。日本では、「脳卒中＝寝たきり」と言われていました。これを解決するためによくリハビリテーション専門病棟ができた2000年頃、ニュージーランドでは、すでに次のような効果的なシステムが確立していました。

病院での急性期の治療は約10日、できる限り早期にリハビリテーションを開始し、10日を過ぎるとリハビリテーション専門の病棟へ移り、生活のためのリハビリテーションを集中して実施しトータル1カ月で退院します。退院後は地域のリハビリテーションセンターへ通院し、NPOである脳卒中財団のボランティアの支援を受けながら再発防止に留意して日常生活を送ります。

ニュージーランドは日本のほぼ真南、南半球にあり、日本と同じ火山の多い島国です。面積は日本の71%ですが、人口はわずか500万人足らず。国民一人あたりの医療費、対GDP比、公的負担比率などはほとんど日本と

ナトリウム (Na⁺)

血液のナトリウム濃度と同程度 (140mEq/L) になるよう調整しています。透析中の血行動態に影響が大きく、高ければ血圧が上昇し透析低血圧は予防されますが、喉が渇き透析間の体重増加の原因となります。低ければ透析低血圧やつれなどの原因となります。

カリウム (K⁺)

透析患者さんは野菜、果物、コーヒー、お茶など食事によって血中のカリウム濃度が上昇します。血液の濃度基準値は3.5～5.5mEq/Lです。心臓の働きに深く関与しているため、カリウムが上昇すると、不整脈や心停止の恐れがあります。そのため、除去する必要があり、透析液のカリウム濃度は血液よりも低い2.0mEq/Lに設定されています。

カルシウム (Ca²⁺)

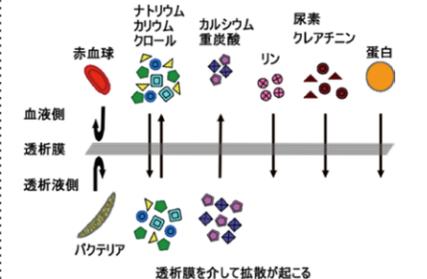
透析液のCa濃度は、腎性骨ミネラル代謝障害の治療において非常に重要です。腎不全になると、PTH (骨を溶かして血中Ca濃度を上昇させるホルモン) の分泌を抑制できなくなります。そうすると骨がもろくなり、血液中のCa濃度が上昇します。骨折や動脈硬化・心血管系疾患のリスクが高まってしまうのです。当院では2.5 mEq/Lの透析液を使用しています。

重炭酸 (HCO₃⁻)

腎不全になると、体液が酸性に傾き、細胞の働きが悪くなります。それを是正し、生理的な弱アルカリ性に戻すために、透析液にはアルカリ化剤である重炭酸が含まれています。

ここで再び拡散！

透析中、透析液と血液は図のように濃いものと薄いものをダイアライザーの膜を介して混ぜ合い、拡散によって体内に不必要なものは取り除き、足りないものを補充しています。



透析液について興味をもっていただけましたら、どんなことでも構いません、スタッフに質問いただければ幸いです。今回の「透析医療の秘密」では透析液の製造、安全管理、透析液の疑問について解説する予定です。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。それでは皆さま、素敵な秋をお過ごしください。(T.I)

在宅透析の歴史に学ぶ

同じです。

長時間透析の王国

透析に話を戻します。前号で65歳未満では約1/4が在宅HDを選択していると報告しました。さらに統計を見ていきますと、在宅HDが普及しているからか、透析患者の半数が週15時間以上の長時間透析を実施しています。標準とされている12時間との差は3時間(1回1時間)ですが、透析量では25% UPであり、その差はかなり大きいですね。

患者条件の問題はありますが、ニュージーランドの患者データの比較では、在宅HDは施設HDに比べ、52%も死亡リスクが低いという報告があります。在宅で、隔日に、オーバーナイトで長時間透析を実施すると、緩やかに優しい、体に負担の少ない透析が可能になります。

日本は歴史を塗り替える必要が？

このように患者にとってメリットの大きい在宅HDですが、世界的にはまだ少数派でした(日本は特に!)。ニュージーランドでも自然に患者や医療者が在宅HDを好んで選択した結果でもなさそうです。

一つには人口密度が低いという地理的な制約条件はあるでしょう。政府は、医療改革の必要性に迫られた時、施設透析に比べ、コストが約30%低いといわれる在宅HDのコスト効率に着目し、在宅透析にインセンティブを付与しています。

歴史的には、透析医療が普及していく段階で、熱心在宅透析 (PDを含む) のシステム(主に患者教育システム) を作り普及させた先駆者の存在が大きいようです。

ニュージーランドは人口は少ないものの、ラグビーやヨットレースでは世界の強豪の一つとなっています。世界で強豪を維持するのは大変ですが、それも歴史の力ですね。

日本の在宅HDの普及には、歴史を塗り替える必要があるのでしょうか。(D.S)



アメリカズカップに出場したニュージーランドのヨットで観光セーリング

透析 十人十色⁵

透析医療の文化を変えなければ



35年間の透析を集計すると・・・

この原稿の締切日は9月15日、私の59回目の誕生日でした。その前日の14日、今から35年前のこの日に、私は透析治療を始めました。(前回も、いや、もう何度も書きましたね?!)

これまで何回かにわたって透析時間について、私の思うことを書いてきましたけれど、ちょうど35年を経過した「節目」ということでもないのですが、何気に電卓を叩いてみました。

5時間×13回×12カ月×35年=27,300時間
決して小さな数字ではないと思います。これだけの時間があったなら、何ができたろう?と考えながらも、もし、この数字がもっと小さかったなら? もっと大きかったなら? 私の透析生活は、どうなっていたのでしょうか?

何よりも、この時間がなければ、「あの時」からの私の306,600時間は存在しなかった。そう思うと、非常に感慨深い数字です。

ちなみに、要した医療費は、おおよそ1億8千万円、私の場合、導入当時の透析医療費はもっと高額だったし、何度かの合併症治療も受けているので、それ以上の額であることは間違いないでしょう(この話題になると、いつそや「脚光」をあびた元アナウンサー氏が、またぞろ登場しそうですが?!)。

三兄弟の再会を喜ぶ

私には「三兄弟」と呼ばれる友人がいます。それぞれ2歳ずつ離れていて、長男は61歳、次男が59歳、そして三男坊が57歳です。そう、私は次男です。三人ともに、何らかの形で透析に関係しています。私は透析患者なので、「関係」どころか、「そのまんま」ですが。長男・三男も、かなり深く透析に関わる立場にあります。個別に具体的に書くと、直ぐに限定されてしまうので避けておきますね。

久しぶりに三兄弟が集まりました。これも、私の「節目」とは関係なく偶然でしたが、結局は誕生日も含めて祝ってもらいました。長男とは約半年ぶり、三男とは数年ぶりで、「全員集合」は約4年ぶりのことでしたが、その空白の期間とお互いの距離感は、透析という共通項で瞬時に解消されてしまいます。

Voice ~患者さんの声~

臨時で田端駅前クリニックをご利用くださった2人の患者さんからいただいた感想を掲載いたします。

海外出張の帰りで疲れている時に本当に助かりました

海外出張の帰りの臨時透析だったので、土曜日の夕方6時からお願いでしたが本当に助かりました。オンデマンドのビデオが臨時でも見ることができ、とてもリラックスできました。特に海外出張の帰りで疲れている時だったので嬉しかったです。ありがとうございました。(Y.Mさん)

他院にない発想で快適だったチェアの配置

臨時透析で「5時間半、オンラインHD

F」の透析条件が可能のところは少なく、大変助かります。チェアの配置は想像以上に快適でした。他の患者の視線が気にならないというのは、他院ではなかなかない発想だと思います。

夜23:30までは患者にとってメリットですが、同時にスタッフの通勤は大丈夫なのか?と心配になりました・・・。

午後1に窓の開閉をして外の空気を入れ替えをしていましたが、衛生的に少し疑問を感じました。

以上、また利用させていただきますので、よろしくお願ひいたします。(Y.Sさん)

ご感想、ありがとうございました。

